

16. 博多湾公共用水域調査地点におけるCODと関連する有機物項目について

環境科学課 上尾 一之・清水 徹也・新田 千穂

第30回全国環境研究所交流シンポジウム

博多湾の貧酸素水塊発生状況把握のために多項目水質計による水質の垂直分布の測定を実施するとともにCODの構成要素解明のために関連項目の分析を行った。多項目水質計を用いて貧酸素水塊の発生の確認及びDO、塩分、水温の調査を実施した。

6月から9月にかけて貧酸素水塊が確認され、塩分濃度差と水温差による影響が示唆された。COD関連項目の測定結果は、冬季に比べ夏季が高く、表層で顕著であった。CODは溶存性有機炭素(DOC)＋懸濁性有機炭素(POC)、POCはクロロフィルa(Chl a)と高い相関を示した。栄養塩類は冬季に高く、CODと有機態炭素(DOC+POC)、POCとChl aが高い相関があることから、CODは有機態炭素を反映した値であり、POCの大部分は植物プランクトンであることが示唆された。